



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第三一四号）

小寒

一月六日

## せんぐう館、再館

外宮まがたま池のほとりに平成二十四年に開館した「せんぐう館」。およそ二年かけた改修工事を終え、再館しました。

久しぶりに、せんぐう館を訪ねました。御装束神宝の調製工程品、遷宮の渡御御列模型、外宮正殿原寸大模型などは、以前とほぼ同じ展示で、やはり見ごたえがありました。

そして、再館でもっとも変わったのが、地下の第六展示室。式年遷宮の八年前から始まる遷宮諸祭が写真パネルと実際に使用した祭器などで紹介されています。

一般でいう棟上げ式にあたる「上棟祭」は、宮大工二人が完成した社殿の屋根に上り、「千歳棟、万歳棟、曳々億棟」の掛け声とともに、木槌を三度打ちますが、そのシーンを映像で再現しています。建物が永遠に立ち栄えるようにという掛け声を聴くと、平成二十四年当時がよみがえるようでした。

そして、「鳥総立て」の展示にも驚きました。平成十七年六月の長野県上松町で行われた「御杣始祭」で初めて見た、木こりの風習でした。伐り倒した樹齢三百年のヒノキの切株に、その梢を挿し、山の神に感謝し、木の再生を祈るといふもの。「木の本末をば山の神に祭りて、中間を持ち出て来て」と詠む宮中祭儀の祝詞もあるそうです。

今回は、神宮の森から樹齢約百年のヒノキの切株を移し、鳥総立ての展示にしました。神宮の式年遷宮では一万本以上のヒノキが御用材として使われます。この御用材なくしては、遷宮はできません。千三百年続く遷宮を支える日本の自然にも着目した展示なのです。

文 千種清美



# おかげの里便り

おかげ横丁

## ○ 鏡開き ぜんざいのお振る舞い

1月11日の鏡開きに合わせ、お正月の間、歳神様に供えた鏡餅を鏡開きした後、1年の無病息災を祈り、ぜんざいにして約300食お振る舞いいたします。

と き／1月11日(土) 11:00～なくなり次第終了  
ところ／おかげ横丁「太鼓櫓」

## ○ 新春郷土芸能披露

お正月にふさわしい、縁起のよい、郷土色豊かな伝統芸能が繰り広げられます。三重県には、古くから受け継がれた民俗芸能や無形文化財が数多く残されており、地域に根付く郷土芸能の数々が、新しい年を祝い伊勢に集まります。

と き／1月中旬  
ところ／おかげ横丁一帯(雨天一部内容変更あり)

### ● 恵利原の早餅つき

と き／1月11日(土) 13:30～、14:30～、15:30～

### ● 東大淀 子供獅子舞

と き／1月12日(日) 13:00～、15:00～

### ● 金山相撲取り踊り・木本節

と き／1月13日(月・祝) 13:00～、15:00～

### ● 伊勢大神楽

と き／1月18日(土) 13:00～、15:00～

五十鈴塾

## ○ 萬歳楽を見に行きましょう

伊勢志摩地方は古くから開けていた土地なので様々なお祭りが各地に残っていますが、復活させた神事もあります。それが伊勢市楠部町に伝わる萬歳楽です。伊勢神宮の神田近くにある櫛樟尾神社の例大祭で奉納される豊年舞で、式典と鬼打ち儀式の後におこなわれます。素襖烏帽子姿の大人と子供が由利とよばれるお供えを肩に担いで祝言葉を唱えながら、八畳大の舞台の上を回って豊作を祈願します。稲が経済の中心であった昔が甦る行事です。鬼打ち儀式は大きな鬼が描かれた的に矢を放ち悪霊を祓いますが、終わった後その的に描かれた鬼の絵が福をもたらすので取り合いになります。頑張ってみてください。また萬歳楽の後は紅白の餅まきがあり、その後は近くの四郷小学校で直会として炊き込みご飯と豚汁が振る舞われます。一年のはじめに福をいただきにまいりましょう。

と き／1月19日(日) 9:25～12:00

講師／佐熊 実(伊勢の語り部)

参加費／一般1,350円 会員850円

集合場所／9:25までに楠部町櫛樟尾神社

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

## ○ 節気菓子

えとがしね 2020年の干支・子の印をあしらった迎春菓子。  
干支菓子・子 黄色の羊羹に軽羹を重ね合わせました  
(1月19日まで販売)

きょくじつ 紅色の練りきりで白餡を包み、元旦の初日の出に見立てました。  
旭日 神々しい陽の光を表した金箔を添えて、おめでたい新春の気分があふれます。  
(1月7日まで販売)

よろこ 新たな年を迎えたよろこびを、恭賀の思いをこめて、  
佳び 紅白のきんとんで表現しました。山芋を使ったきんとんで、  
(1月8日から19日まで販売) 粒餡を包んでおります。